

# 平成27年度の三木市教育委員会の事務の管理

## 及び執行の状況に関する点検・評価報告書

(概要版)

三木市教育委員会

### 目 次

I	教育委員会及び事務局の状況	P 1
II	施策の点検・評価	
1	子ども一人一人の力を伸ばします	P 2
2	魅力ある学校園づくりをすすめます	P 5
3	人と人とのつながりを大切にする生涯学習をすすめます	P 6
4	その他の取組	P 10
5	市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が 補助執行している事務（1に掲載したものを除く。）	P 11
III	外部評価者の評価	P 11

## はじめに

平成27年度は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が約60年ぶりに大幅に改正され、教育委員会制度が抜本的に見直された歴史的な年となりました。

新たな教育委員会制度の中で市長が設置することとなった「総合教育会議」では、各分野の関係者から意見を聴取し、市長と教育委員会が協議を重ね、平成28年3月に「三木市教育大綱」を策定しました。

また、市の機構改革により、0歳から15歳までの子どもの教育と保育の垣根をなくし、子どもの成長に合わせた切れ目のない子育て支援を行うため、教育委員会事務局の組織体制が従来の「教育部」だけの1部制から、「教育企画部」と「こども未来部」の2部制に変わり、市長の権限に属する事務である「認定こども園及び保育所、子育て支援並びに児童福祉に係る事務」を教育委員会事務局職員が補助執行することとなりました。

これらの補助執行については、教育委員会事務局職員が事務を行っており、教育委員会の権限に属する事務を行うことと変わりなく、責任ある業務遂行を進めていることから、このたびの点検・評価の対象としています。

教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会が1年間に行った施策を自ら振り返り、評価するものです。

この概要版は、平成27年度に重点的に取り組んだ施策についての点検・評価の概要をお示しするものです。

この点検・評価を通して、現在実施している施策や事務事業における成果と課題を整理するとともに、見直しと改善を行い、よりの確で効果的な施策を実施していくことで、三木市の教育の一層の充実と発展に資することができるよう今後も努力してまいります。

なお、各施策の詳細については、本編をご覧ください。

平成28年9月

三木市教育委員会



イ 教育委員会事務局の職員数

各年度 3 月 31 日現在

区 分	平成 2 7 年度	平成 2 6 年度	増減
正 規 職 員	102 人	71 人	31 人
非 常 勤 職 員	245 人	142 人	103 人
合 計	347 人	213 人	134 人

ウ 教育委員会所管業務の歳出決算見込額

(単位：円)

款	平成 2 7 年度	平成 2 6 年度	増減
教育費	3,402,358,316	3,759,161,751	△356,803,435
民生費	4,072,887,963	162,283,930	3,910,604,033
総務費	36,931,254	0	36,931,254
合 計	7,512,177,533	3,921,445,681	3,590,731,852

## II 施策の点検・評価

### 1 子ども一人一人の力を伸ばします

#### ◇取組の目的

就学前教育・保育の充実、そして一人一人の状況に応じた学力、心、体力の育成を通じて、子どもたちの個性と能力を伸ばすことを目的に取り組んでいます。

#### ◇主な点検・評価項目

##### ○幼保一体化計画の推進（補助執行）

就学前教育・保育を切れ目なく、豊かな育ちを保障していくため、「三木市子ども・子育て会議」において、三木市幼保連携型認定こども園教育・保育共通カリキュラムを策定しました。

また、保育所(園)との交流研修会（公開保育）を16回開催し、保育者が子どもの発達の特性に合った様々な遊びを通して、個々の幼児に寄り添ったより適切な教育・保育が実施されるようになりました。

平成27年度保育者合同研修会、交流・選抜研修会の開催状況

研 修 会	講 師	開催日・場所	開催回数	参加人数
保育者合同研修会	兵庫教育大学大学院 教授 橋川 喜美代 氏	平成 27 年 6 月 20 日	2	280
三木市幼保連携型認定こども園教育・保育共通カリキュラム説明会	兵庫教育大学大学院 准教授 石野 秀明 氏 関西国際大学 准教授 松本 恵美子 氏	平成 28 年 2 月 6 日	2	268
研 修 会	講 師	開催日・場所	開催回数	参加人数
交流研修会	兵庫教育大学大学院 教授 橋川 喜美代 氏	平成 27 年 8 月 ～平成 28 年 1 月 公立幼稚園 5 園 公立保育所 3 園 民間保育園 8 園	16	266
選抜研修会	兵庫教育大学大学院 教授 橋川 喜美代 氏	平成 27 年 6 月 ～平成 27 年 7 月 公立幼稚園 1 園 公立保育所 1 園 民間保育園 2 園	4	46

市内の特定教育・保育施設の教育・保育の質の向上及び運営の適正化を図るために、市独自に第三者による評価及び監査を実施しました。

三木市独自で定めた評価の基準は次のとおりです。

- ① 心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
- ② 異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
- ③ 自尊感情を育むとともに豊かな人権感覚を養う教育・保育

三木市特定教育・保育施設の評価

評価実施施設数	内 容	評価実施日	評価者
公立幼稚園 3 園 公立保育所 1 園 民間保育園 7 園	保護者アンケート 職員自己評価 施設自己評価 評価者による評価	平成 27 年 6 月～平成 28 年 1 月	関西国際大学准教授 百瀬 和夫 氏 兵庫教育大学准教授 鈴木 正敏 氏 (株)H.R コーポレーション

また、平成28年4月からの別所認定こども園の開園に向け、旧別所幼稚園の園舎を改修し、園児が安心して教育・保育を受けることができる環境の整備を行いました。

今後は、平成29年4月の開園を目指し、(仮称)緑が丘認定こども園及びよかわ認定こども園の整備を行います。

平成27年度事業の実績

(単位：千円)

事業名	事業費
幼保連携型認定こども園推進事業(公立)	186,411

○三木市小中連携教育推進事業

各中学校区小中連携推進委員会を中心に、児童生徒の側に立った一貫性ある指導を行い、子どもの不安を取り除き、学びの楽しさあふれる学校づくりに取り組んでいます。

小中連携教育推進の取組を年間計画に位置づけ、小中学校で学習指導、生徒指導等で緊密な連携を図りながら、9年間を見通した連続性のある教育を実現するための取組を推進しました。

【具体的な小中連携教育推進内容】

- (ア) 学習指導…………… 相互授業公開・授業参観(8)、合同研修会(8)  
出前授業(6)、体験授業(8)
- (イ) 生徒指導・特別支援教育 小中連絡会(8)、中学校区不登校対策委員会(4)
- (ウ) 行事・部活動等…………… 小学生体験入学(8)、部活動見学(8)、部活動体験(8)
- (エ) 学校運営・PTA等…………… オープンスクール時の相互授業・行事参観(6)

※ ( )内数字は、実施中学校区数

○生徒指導体制の確立

児童生徒のいじめ等の問題行動の未然防止と早期対応のため、相談体制の充実を含めた生徒指導体制の確立に努めました。

中学校での問題行動の発生件数は平成25年度に大きく減少し、平成27年度も124件と、更に大きく減少することができました。

問題行動等の件数の推移

(件)

年度	問題行動					いじめ				
	H23	H24	H25	H26	H27	H23	H24	H25	H26	H27
小学校	36	26	30	42	31	4	7	8	8	6
中学校	269	223	165	163	124	7	14	22	15	11

### ○不登校総合対策推進事業

各校で「学校 I K O K A マニュアル」を活用し、早期対応の必要性・重要性を再認識するとともに、別室登校の対応や家庭訪問など組織的な取組を続けています。

不登校の出現は、小学校は9人で、出現率もおおむね全国や兵庫県と同程度でした。中学校では37人で、出現率も全国や兵庫県の水準を、大きく下回ることができました。

### 平成27年度不登校児童生徒の状況

	人数（人）		出現率（％）	
	三木市	三木市	兵庫県	全国
小学校	9 (-3)	0.23%	0.27%	0.39%
中学校	37 (+3)	1.81%	2.57%	2.76%

※（ ）内数字は平成26年度比

## 2 魅力ある学校園づくりをすすめます

### ◇取組の目的

教職員の資質の向上や学校園情報の発信、また、安全・安心な教育環境の整備を通じて、地域社会の中でより積極的な役割を果たしている学校園をつくります。

### ◇主な点検・評価項目

#### ○専門研修講座の開催

専門研修講座は、『学校力』及びその中心である教職員の『教師力』（教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力）を強化することにより、児童生徒の『人間力』を豊かに育てることを目的として実施しています。

教職員の指導力及び専門知識の充実を目的として、5つの領域で27回の専門研修講座を実施しました。

### 平成27年度研修に関する受講者の評価

研修項目	参加人数	受講者の評価（5点満点）
(ア) 人間力・学校力向上教育コース	395人	4.7点
(イ) 授業力向上教育コース	443人	4.8点
(ウ) 個を生かす教育コース	321人	4.7点
(エ) 情報メディア教育コース	582人	4.4点
(オ) 課題追及コース	103人	—

※ (オ) 課題追及コースは、受講者アンケートに評価点方式を採用していないため、受講者の評価を記載していません。

#### ○安全・安心な学校園を目指して

平成26年1月9日に発生した市立中学校での転落事案を受け、三木市教育委員会では、三木市教職員危機管理ハンドブックの改訂計画を立て、平成27年度は、全章の改訂が終了しました。

さらに、小学校及び特別支援学校に警察OBを配置し、学校園内及び学校園区内における児童生徒の安全確保を図っています。

#### ○学校施設の整備の推進

老朽化が進んだ学校施設の改修や耐震化を実施しました。

平成27年度主要事業の実績

(単位：千円)

事業名	事業費
小中学校屋内運動場非構造部材耐震化事業	153,973

### 3 人と人とのつながりを大切にする生涯学習をすすめます

#### ◇取組の目的

地域や家庭教育の支援、人権教育の推進、市の特色を生かした文化・スポーツ振興事業を通じて、すべての人が尊重され、心豊かに学び続けることのできる社会づくりを目的に取り組んでいます。

#### ◇主な点検・評価項目

○公民館における学習機会の充実

市内10公民館において、乳幼児学級、高齢者教室など、ライフステージに応じた講座を開催し、受講生同士の交流と情報交換を図り、仲間づくりや地域づくりを深める場を提供しました。

平成27年度生涯学習講座実施状況

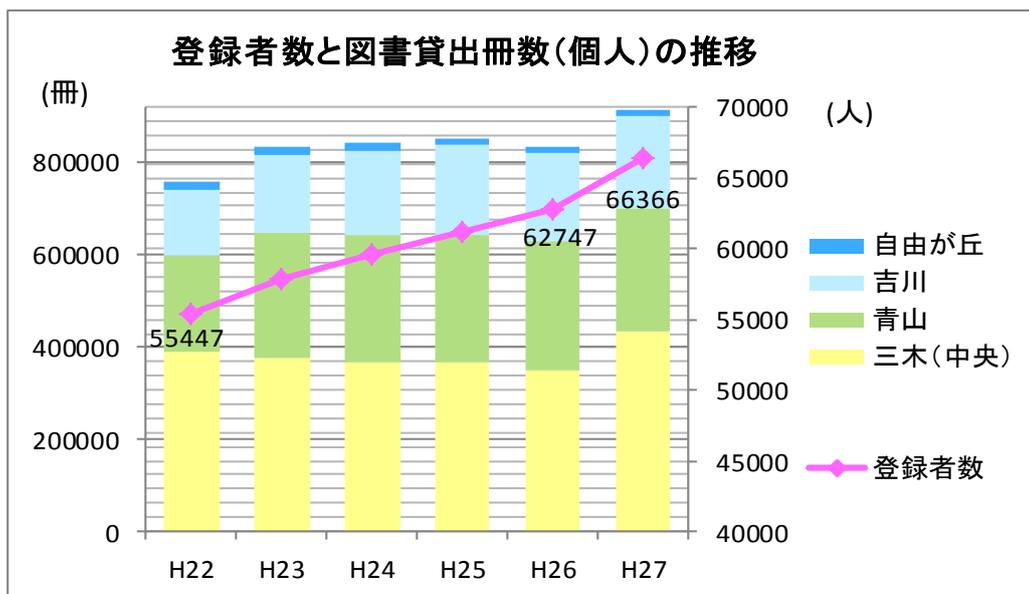
講座名	実施回数	延べ参加者数
乳幼児学級	174回	5,858人
家庭教育学級	45回	1,956人
家庭教育推進事業	6回	440人
女性セミナー	86回	2,097人
高齢者教室	87回	4,923人
各種専門教室	701回	9,132人

○市民ニーズに対応した図書館の充実

7月に中央図書館を開館し、平成18年度から整備してきた第1次・第2次「三木市立図書館活性化構想」による、青山図書館・吉川図書館・自由が丘公民館図書コーナーの市内4拠点での図書館サービス網が整いました。

図書館実績推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
登録者数(人)	55,447	57,851	59,538	61,228	62,747	66,366	
図書貸出冊数 (個人)(冊)	三木(中央)	391,183	377,591	368,924	368,010	347,367	433,856
	青山	208,016	269,152	273,545	274,678	280,786	267,032
	吉川	142,945	170,094	183,699	196,010	192,487	199,136
	自由が丘	14,002	15,955	15,869	15,100	14,187	13,214
	計	756,146	832,792	842,037	853,798	834,827	913,238
予約・リクエスト (ネット含む) (件)	三木(中央)	40,509	39,483	40,948	41,374	43,741	51,694
	青山	28,895	36,410	40,206	40,251	45,268	50,372
	吉川	16,423	19,561	24,478	25,761	24,401	23,909
	自由が丘	9,062	11,194	11,678	11,754	11,268	9,910
	計	94,889	106,648	117,310	119,140	124,678	135,885
図書所蔵状況 (冊)	三木(中央)	171,888	174,886	179,426	181,470	184,179	188,292
	青山	38,593	43,991	48,857	53,050	56,067	59,188
	吉川	32,553	38,480	43,569	48,085	51,966	55,945
	自由が丘	2,970	3,150	3,230	3,292	3,283	3,451
	計	246,004	260,507	275,082	285,897	295,495	306,876
備考		H22.6 青山図書館 開館		H24 第2次活 性化構想 策定			H27.7 中央図書館 開館



#### ○みき歴史資料館の整備

平成25年3月に、三木城跡及び付城跡・土塁が国の史跡に指定されました。そして、史跡指定と前後するかたちで、これらの遺跡群を活かしたまちづくりを推進するため、平成24年6月、「三木歴史・美術の杜構想」が策定され、三木城跡や城下町を含む付城跡群で囲まれた区域全体をフィールドミュージアムに見立てる「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」の中核施設として、平成28年5月開館を目標に、みき歴史資料館を整備しました。



(みき歴史資料館の内部)

○「(仮称) 三木市立総合体育館」の基本設計・実施設計に着手

市民の誰もがスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、また、各種スポーツ大会などが開催できる三木市の新たなスポーツ拠点として総合体育館の建設に向け、基本設計・実施設計を行う設計業者をプロポーザルコンペにより選定しました。

平成27年度は、「(仮称) 三木市立総合体育館」建設基本計画に基づき、総合体育館建設に向けての設計業務に着手しました。

平成28年度当初に工事入札の手続きを行い、議会の議決を経て工事に着手し、平成29年10月に開館予定です。

○ゴルフの普及・発展

三木市スポーツ振興ビジョンのソフトウェアに関する方策の1つである「三木の特色を生かしたスポーツの振興」として、三木市ゴルフ協会等との連携により、市民ゴルフ大会、三木市長杯ゴルフ大会、企業対抗ゴルフ大会を開催しました。また、平成27年度は、三木市ゴルフ協会設立10周年の記念イベントとして、プロとラウンドする市民ゴルフチャンピオン大会を開催しました。

ジュニアゴルファーの育成事業として、ジュニアゴルフ塾を開催し、ラウンドレッスンによるルールの指導を行いました。その他、定期講習会、ジュニアゴルフ大会、スナッグゴルフ事業として、講習会、ペア大会等を開催しました。その結果、ゴルフの普及や青少年の健全育成、ジュニア育成などにおいて効果がありました。



(広野ゴルフ倶楽部での「みっきいジュニアゴルフ塾」)

## 4 その他の取組

### ◇取組の目的

学校教育事業を補助する諸活動を通じて、子ども達の教育のより一層の充実を図ることを目的に取り組んでいます。

### ◇主な点検・評価項目

#### ○中学校自転車通学者保険補助金交付事業

兵庫県の「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」により、平成27年10月から自転車の利用者に自転車損害賠償保険の加入が義務付けられました。

これを受け、教育委員会では中学校の自転車通学者に対し自転車通学者保険補助金を交付し、対象者の保護者負担を軽減することにより、対象者の保険加入の促進を図りました。

保険加入の義務化が年度途中であったため、当初は加入者数が少なかったことを踏まえ、今後は対象者全てが保険に加入できるよう学校を通じた保護者への周知をより一層行っていきます。

#### ○奨学資金給付事業

経済的理由で高校、大学、専修学校等の学資の支弁が困難な世帯に対し、奨学資金を給付し、円滑な進学を促進しています。平成28年度も本事業を継続します。

(ア) 総事業費	27,783 千円		
(イ) 奨学金受給者数	320 人		
【内訳】			
国公立高校生	( 6,000 円/月)	208 人	
私立高校生	(12,000 円/月)	22 人	
大学生	( 9,000 円/月)	70 人	
専修・各種学校生	( 9,000 円/月)	20 人	

5 市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行している事務（1に掲載したものを除く。）

◇主な点検・評価項目

○児童手当の支給【子育て支援課】（補助執行）

児童手当は、子ども・子育て支援の適切な実施を図るため、父母その他の保護者が子育てについての第一義的責任を有するという基本的認識の下に、家庭等における生活の安定に寄与するとともに、次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的として支給される手当です。中学校修了前の児童を養育している方に支給されます。（所得制限あり）

平成27年度 児童手当給付状況

給付額（月額・円）	受給者数	支給金額
3歳未満：一律15,000	5,185人	1,166,075千円
3歳以上小学校修了前：10,000 （第3子以降：15,000）		
中学生：一律10,000		
所得制限額以上：一律5,000		

○地域子育て支援拠点事業（児童センター・児童館）（補助執行）

子育て中の親子を対象に、児童センター及び吉川児童館をはじめ地域の公民館等の身近な場所において、子育ての孤立感や負担感の解消を図り、安心して子育てのできる環境をつくることを目的とした、親子の交流の場、相談、情報提供等を実施しています。

平成27年4月からは、児童センターの開館日を平日及び土曜日の午前中から、平日・土曜日全日・日曜日・祝日に変更するなど、機能をさらに充実させ、日曜日に「ファミリーDay」として、父親の子育て参加を推進する事業を新たに実施したことで、親子・家族での参加者の増加を図ることができました。

### Ⅲ 外部評価者の評価

京都教育大学教授の竺沙知章氏と、兵庫教育大学教職大学院非常勤講師の廣岡徹氏に学識者評価を賜りました。評価の詳細については、本編をご覧ください。